

動物プランクトン現存量と種組成の長期変動

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-11-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 杉崎, 宏哉 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2012404

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



動物プランクトン現存量と種組成の長期変動

混合域海洋環境部

研究の背景・目的

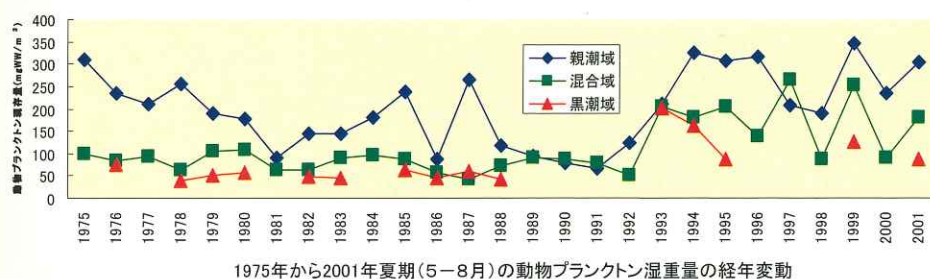
1. 親潮域の動物プランクトン湿重量は、気候レジームやマイワシ資源量変動と共通のタイミングで起こることがあるが機構は不明
2. 動物プランクトンの種組成解析を行い、気候変動とプランクトン種組成の長期変動機構解明研究の推進

研究成果

1. 親潮域の動物プランクトン現存量の変動が顕著. 1990年代後半以降親潮域・混合域とも高水準・変動幅大
2. 1980年代前半から2001年に混合域・黒潮域で個体数増加, かいあし類比率減、甲殻類以外の比率増, 多様度低下が顕著

波及効果

1. 希有なプランクトン長期モニタリング試料として世界的に注目
2. 気候変動による海洋生態系の変動機構や種多様性の変化の評価
3. 生物過程による温暖化ガスの吸収や沈降の機構解明にも寄与



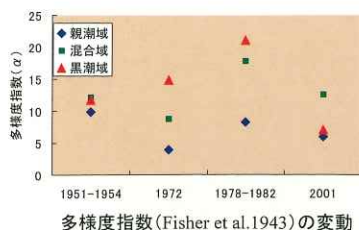
親潮域の動物プランクトン現存量の変動が顕著

1970年代前半の高水準
→ 1970年代中盤以降の急減
→ 1990年代前半の上昇傾向

1990年代後半以降親潮域・混合域とも高水準・変動幅大

レジームシフトなど気候の長期変動との関連？
マイワシなどの種間関係？

1979~82と2001年夏期のかいあし類種組成の相違



親潮域は他の海域と比較し、かいあし類 (特に大型種) の割合: 高

プランクトン現存量の多い時代には
かいあし類の割合: 低 (大型種の減少)、
甲殻類以外の割合: 高

親潮域の多様度指数は他海域に比較し低い、
特に現存量の高い時代に低い傾向